岡山県の海面におけるウナギの漁獲量

ウナギは生活史の一時期を河川や湖沼などで過ごしますが、一部は淡水域に遡上せず、海に留まることが知られています。岡山県の児島湾では、古くからウナギを対象としたつぼなわ漁業やはえなわ漁業が行われているほか、小型定置網でもウナギが漁獲されています。

海面で漁獲されるウナギは国が行う海面漁業生産統計調査の対象魚種では無いため、岡山県の海面における漁獲量の動向はよく解っていませんでした。そこで、水産研究所では、令和元年度から長野大学を中心とする 39 研究機関と協力し、海面におけるウナギ漁獲量の調査を実施しています。

令和元年度から５年間、県下４漁協における漁獲量を調査した結果、ウナギの漁獲量は減少傾向にあり、海面のウナギ資源量が減少している可能性が示唆されました。全国的にウナギ資源は海洋環境の変化や過剰漁獲等によって減少していると指摘されていますが、岡山県においても他海域と同様にウナギ資源量が減少しているようです。

以上のように、海面におけるウナギの漁獲実態に関する知見が蓄積されつつありますが、効果的な資源管理を実施するために必要な基礎情報が十分に得られているとは言い難いのが現状です。水産研究所では、ウナギの持続的な利用のため、引き続き他機関と協力してウナギ資源調査を継続していきたいと考えています。

（栽培・資源研究室　津行）

写真１　漁獲された海ウナギ

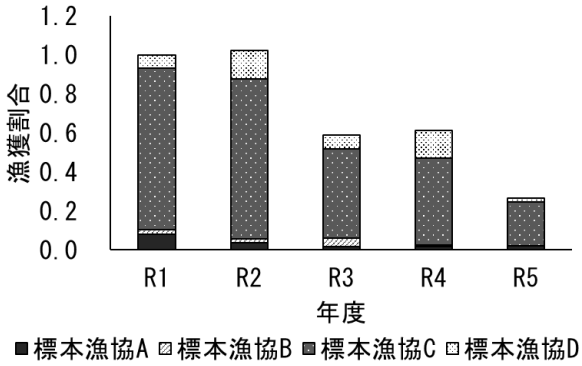

図１　標本漁協における漁獲量割合の推移
（令和元年度の漁獲量を１とした割合）

参考文献

Kaifu et al. (2010) Dispersal of yellow phase Japanese eels *Anguilla japonica* after recruitment in the Kojima Bay-Asahi River system, Japan. Environmental Biology of Fishes, 88, 273-282.

海部健三. (2013) わたしのうなぎ研究. さ・え・ら書房, P44-48

海部健三 (2019) 結局、ウナギは食べていいのか問題, 岩波書店, P4-8